

三重県経済の現状と見通し<2026年2月>

1. 景気判断一覧表

部門	個別項目	水準評価 ※1	基調判断(前月比較)※2	
				詳細
総括判断	景気の現状			<p>持ち直しの動きがみられる</p> <p>観光や企業活動は持ち直しているなど、持ち直しの動きがみられる。</p>
家計部門	個人消費			<p>回復に向けた動きがみられる</p> <p>勤労者世帯・消費支出は、4か月連続の前年比増加</p>
	住宅投資			<p>減少傾向にある</p> <p>住宅着工戸数は、2か月ぶりの前年比増加</p>
	観光			<p>回復している</p> <p>外国人宿泊者数は、11か月連続の前年比増加</p>
	雇用・所得			<p>持ち直し傾向が一服</p> <p>有効求人倍率(季節調整値)は、2か月連続の上昇</p>
企業部門	企業活動			<p>回復に向けた動き</p> <p>鉱工業生産指数は、4か月連続の前年比上昇</p>
	企業倒産			<p>悪化しつつある</p> <p>倒産件数は、4か月連続の前年比減少</p>
	設備投資			<p>持ち直しの兆し</p> <p>民間非居住建築物着工面積は、3か月ぶりの前年比増加</p>
海外部門	輸出			<p>横這い</p> <p>四日市港通関輸出額は、横這い</p>
公共部門	公共投資			<p>持ち直しつつある</p> <p>公共工事請負金額は、2か月連続の前年比増加</p>
その他	物価			<p>上昇している</p> <p>津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、48か月連続の前年比上昇</p>

当面の見通し	物価高や世界経済の不透明感から、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し
	個人消費の回復が期待される一方、日中対立の緊迫化やトランプ政権の関税政策など世界経済を巡る不透明感は強く、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し。

※1「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、

☀:晴、☀|☁:晴～曇、☁:曇、☁|☂:曇～雨、☂:雨、を示す。

※2「基調判断(前月比較)」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、

↗:上方修正、→:据え置き、↘:下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 古橋
	電話:059-354-7102 Mail:33ir@33bank.co.jp

2. 個別部門の動向:家計部門

個人消費	水準評価		⇒	詳細	回復に向けた動きがみられる
	基調判断	前月比較			

＜現状＞

- 個人消費は、回復に向けた動きがみられる。
- 個人消費の動向を支出者側からみると、12月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比+4.8%と4か月連続の増加(図表1)。勤労者世帯可処分所得(津市)は同+7.0%と2か月連続の増加。
- 個人消費の動向を販売者側からみると、12月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースが前年比+0.6%と10か月連続で増加した一方、既存店ベースは同+▲1.1%と10か月ぶりの減少(図表2)。全店ベースを商品別にみると、飲食料品(同+2.1%)が14か月連続で増加し、全体を押し上げ。
- 1月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、6,314台(前年比▲7.4%)となり、前年比で2か月ぶりの減少(図表3)。車種別にみると、小型車(同+8.4%)は2か月連続で増加した一方、普通車(同▲15.1%)は4か月連続、軽乗用車(同▲6.4%)は6か月ぶりにそれぞれ減少した。

＜見通し＞

- 東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、1月の家計部門の水準は44.6と好不況の分かれ目となる50を2か月ぶりに下回った。2～3か月先の先行きに対する判断DIについては、46.3と前月(46.8)から下落し、好不況の分かれ目の50を3か月連続で下回ったものの、所得環境の改善や株高を受けた資産効果を受け、個人消費は回復する見通し。

◆12月 勤労者世帯・消費支出

○ 319千円 前年比 +4.8% (4か月連続の増加)

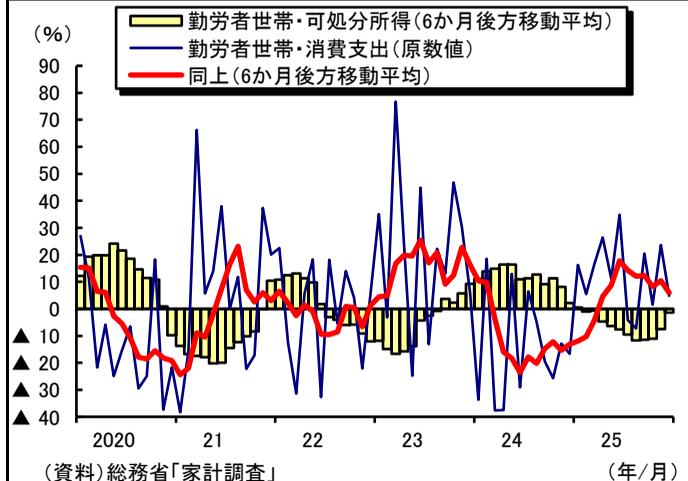
◆12月 大型小売店販売額

○ 全店 前年比 +0.6% (10か月連続の増加)
○ 既存店 前年比 ▲1.1% (10か月ぶりの減少)

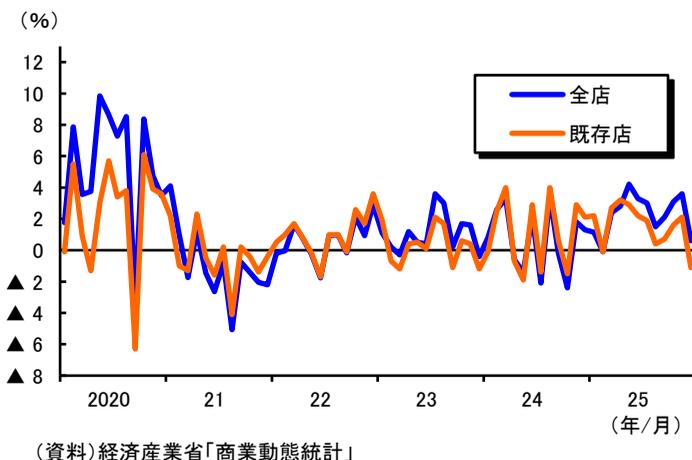
◆1月 新車乗用車販売台数<含む軽>

○ 6,314台 前年比 ▲7.4% (2か月ぶりの減少)
・普通車 2,475台 前年比 ▲15.1% (4か月連続の減少)
・小型車 1,358台 前年比 +8.4% (2か月連続の増加)
・軽乗用車 2,481台 前年比 ▲6.4% (6か月ぶりの減少)

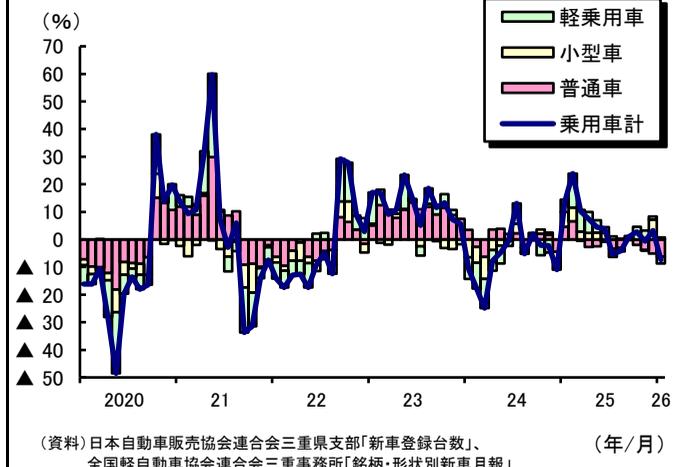
図表1 津市消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



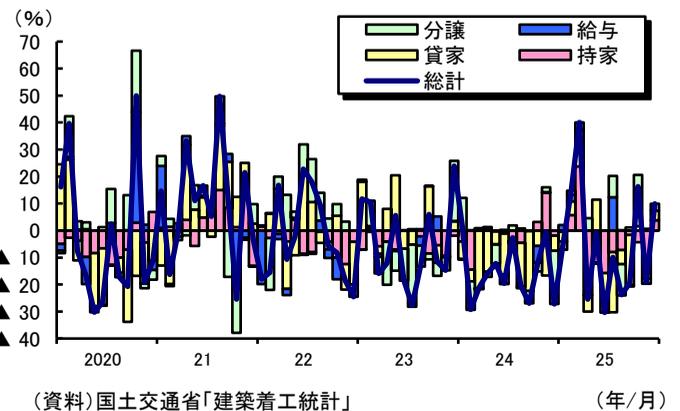
住宅投資	水準評価			
	基調判断	前月比較	⇒	詳細

《現状》
 ○住宅投資は、減少傾向にある。
 ○12月の住宅着工戸数は、576戸(前年比+9.9%)となり、前年比で2か月ぶりの増加(図表4)。利用関係別にみると、持家(同+6.0%)が9か月ぶり、貸家(同+15.8%)、分譲住宅(同+18.8%)が2か月ぶりにそれぞれ増加し、全体を押し上げ。
《見通し》
 ○先行きは資材価格の高止まりなどに伴う住宅価格の上昇、住宅ローン金利の上昇懸念を受け、住宅投資は弱い動きとなる見通し。

◆12月 住宅着工戸数

○ 576戸	前年比 +9.9%	(2か月ぶりの増加)
・持家	354戸	
	前年比 +6.0%	(9か月ぶりの増加)
・貸家	139戸	
	前年比 +15.8%	(2か月ぶりの増加)
・給与住宅	1戸	
	前年比 ±0.0%	(横這い)
・分譲住宅	82戸	
	前年比 +18.8%	(2か月ぶりの増加)

図表4 新設住宅着工戸数<前年比>



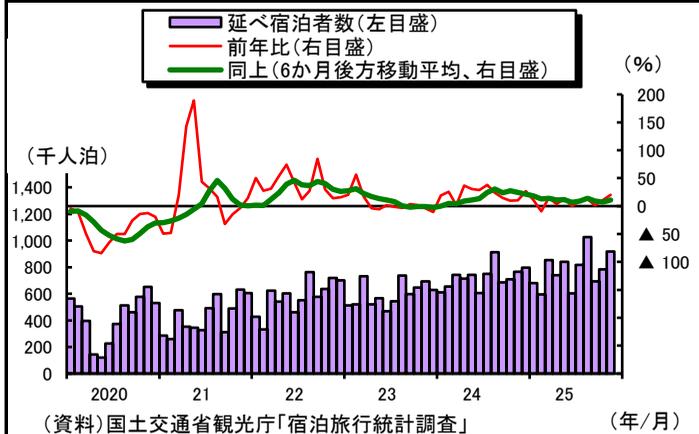
観光	水準評価			
	基調判断	前月比較	⇒	詳細

《現状》
 ○観光は、回復している。
 ○11月の三重県内施設延べ宿泊者数は、919千人泊(前年比+20.1%)となり、前年比で5か月連続の増加(図表5)。外国人宿泊者数は39千人泊(同+46.8%)と、前年比で11か月連続の増加。
《見通し》
 ○三重県の伊勢、志摩、鳥羽の3市などからなる伊勢志摩観光コンベンション機構は伊勢神宮が20年に1回社殿を建て替える2033年の式年遷宮に向けた観光活性化の長期プロジェクトを開始。今後、大都市圏でのプロモーションや周遊キャンペーン、二次交通の改善などに取り組むことで伊勢志摩エリア3市1町の2028年の延べ宿泊客数を、前回の式年遷宮があった2013年に比べ9%増の458万人に引き上げる方針。

◆11月 県内施設延べ宿泊者数

○ 919千人泊	前年比 +20.1%	(5か月連続の増加)
・外国人	39千人泊	
	前年比 +46.8%	(11か月連続の増加)

図表5 三重県内施設延べ宿泊者数



雇用・所得	水準評価		⇒	詳細	持ち直し傾向が一服
	基調判断	前月比較			

◀現状▶

- 雇用・所得情勢は、持ち直し傾向が一服。
- 12月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.19倍(前月差+0.02ポイント)と2か月連続の上昇。新規求人倍率(季節調整値)は、1.90倍(同+0.02ポイント)と2か月ぶりの上昇(図表6)。
- 12月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比+16.5%と2か月ぶりの増加(図表7)。業種別にみると、製造業(同+9.5%)では、金属製品(同▲31.3%)やプラスチック製品(同▲16.9%)が減少した一方、はん用機械(同+94.3%)、化学工業(同+69.0%)などが増加した。非製造業では、学术研究,専門・技術サービス業(同▲26.3%)、生活関連サービス業,娯楽業(▲13.8%)などが減少した一方、医療,福祉(同+7.4%)サービス業(同+9.0%)、建設業(同+8.9%)などが増加した。
- 11月の所定外労働時間指数は、前年比±0.0%と横這い。名目賃金指数(同▲0.2%)は20か月ぶりに下落した一方、きまって支給する給与(同+0.9%)は29か月連続の上昇(図表8)。

◀見通し▶

- 所得については、賃上げノルムの広がりや最低賃金の上昇、人手不足感の深刻化を受けて今後も幅広い業種で賃金上昇が期待される。

◆12月 求人倍率<季節調整値>

- 有効求人倍率 1.19倍
前月差 +0.02ポイント (2か月連続の上昇)
- 新規求人倍率 1.90倍
前月差 +0.02ポイント (2か月ぶりの上昇)

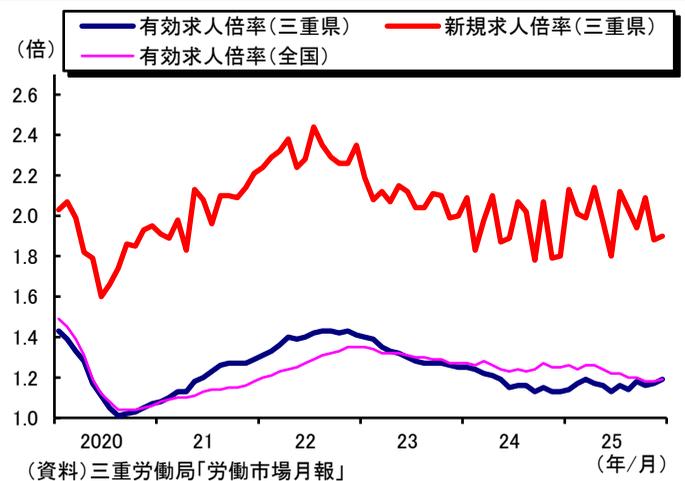
◆12月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

- 前年比 +16.5% (2か月ぶりの増加)

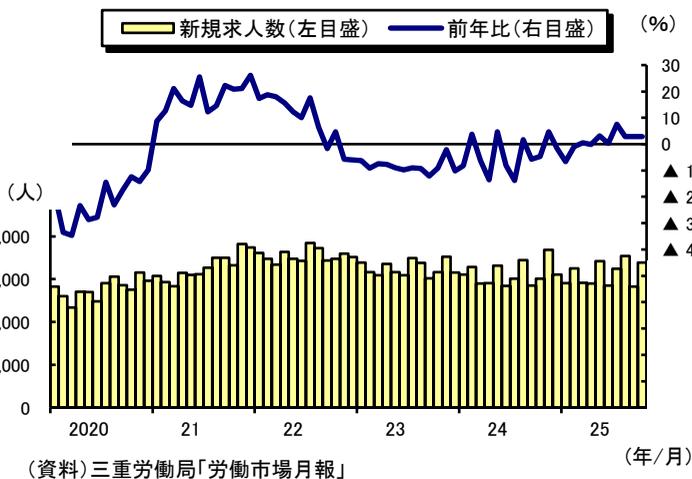
◆11月 労働時間・賃金指数<調査産業計>

- 所定外労働時間指数
前年比 ±0.0% (横這い)
- 名目賃金指数
前年比 ▲0.2% (20か月ぶりの低下)
- ・きまって支給する給与
前年比 +0.9% (29か月連続の上昇)

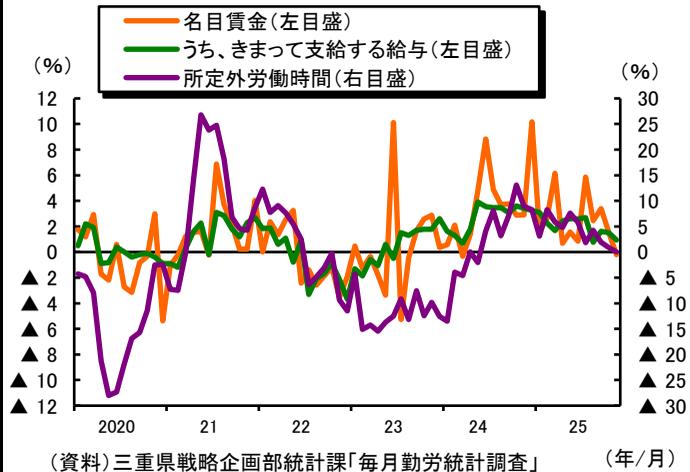
図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値>



図表7 新規求人数<学卒・パート除く>



図表8 労働時間・賃金指数 <調査産業計、前年比>



3. 個別部門の動向:企業部門

企業活動	水準評価				
	基調判断	前月比較	↗	詳細	回復に向けた動き
<p> 《現状》 ○企業の生産活動は、回復に向けた動き。 ○12月の鉱工業生産指数は、前年比+4.3%と4か月連続の上昇(図表9)。業種別にみると、化学工業(同▲3.8%)などが低下した一方、電子部品・デバイス工業(同+15.9%)などが上昇した。 </p> <p> 《見通し》 ○2025年12月に公表された世界半導体市場統計によれば、大手IT企業によるデータセンター向け投資は堅調であり、半導体市場は過去最高を更新する見込みであることから需要が旺盛な半導体を中心に先行き生産は、持ち直しの傾向となる見通し。 ○カネソウ(朝日町)は朝日町の工場内に新たな工場を建設し、マンホール蓋などの建築分野に使う「鋳鉄器材」の生産体制を強化する。2026年中に本格稼働し、月間生産能力を2割増の約360トンに引き上げる。 </p>					
<p> ◆12月 鉱工業生産指数<2020年=100> ○ 112.9 前年比 +4.3% (4か月連続の上昇) ・汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 +5.2% (2か月ぶりの上昇) ・電子部品・デバイス工業 前年比 +15.9% (2か月連続の上昇) ・輸送機械工業 前年比 +9.3% (2か月ぶりの上昇) ・化学工業 前年比 ▲3.8% (2か月ぶりの低下) </p>			<p> 図表9 鉱工業生産指数<前年比> </p> <p>(資料)三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」 (年/月)</p>		

企業倒産	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	悪化しつつある
<p> 《現状》 ○企業倒産は、悪化しつつある。 ○1月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は10件(前年比▲1件)と4か月連続の減少。負債総額は412百万円(前年差▲123百万円)と6か月連続の減少(図表10)。 </p> <p> 《見通し》 ○中小企業の経営環境は、金利上昇を受け、厳しさを増しており、企業倒産は増勢基調をたどる懸念も。 </p>					
<p> ◆1月 企業倒産 ○ 倒産件数 10件 前年比 ▲1件 (4か月連続の減少) ○ 負債総額 412百万円 前年比 ▲123百万円 (6か月連続の減少) </p>			<p> 図表10 倒産件数・負債総額<負債総額1,000万円以上> </p> <p>(資料)㈱東京商工リサーチ津支店 (年/月)</p>		

設備投資	水準評価		☁		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	持ち直しの兆し
<p>◀現状▶</p> <p>○企業の設備投資は、持ち直しの兆し。</p> <p>○12月の民間非居住建築物着工床面積は、21千㎡（前年比+45.3%）と前年比で3か月ぶりの増加。1月の貨物車登録台数（除く軽）は、386台（同+29.5%）と前年比で5か月連続の増加（図表11）。</p> <p>◀見通し▶</p> <p>○変圧器など送配電設備メーカーのダイヘン（大阪市）は、三重事業所（多気町）に新工場を建設する。再生可能エネルギーの拡大やデータセンター・半導体工場の建設増加に伴い、変電所機器の需要が高まっており、大型変圧器の生産の能力を2026年度から徐々に増強することで、2029年度までに2倍にする計画。総投資額は100億円規模。</p>					
<p>◆12月 民間非居住建築物着工床面積</p> <p>○ 21千㎡ 前年比 +45.3% (3か月ぶりの増加)</p> <p>◆1月 貨物車登録台数</p> <p>○ 386台 前年比 +29.5% (5か月連続の増加)</p>			<p>図表11 設備投資関連指標<前年比></p> <p>(資料)国土交通省「建築着工統計」、 日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」</p>		

4. 個別部門の動向：海外部門

輸出	水準評価		☁☔		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	横這い
<p>◀現状▶</p> <p>○輸出は、横這い。</p> <p>○1月の四日市港通関輸出額は、833億円（前年比±0.0%）となり、横這い（図表12）。品目別にみると、乗用車（同▲63.3%）などが減少した一方、石油製品（同+113.5%）やプラスチック（同+72.1%）などが増加。</p> <p>◀見通し▶</p> <p>○2月20日に米連邦最高裁は米国が発動した相互関税やフェンタニル関税を無効と判断。これを受け、米トランプ政権は相互関税の代替措置を24日に発動するなど、米関税の動向は見通しにくい状況であり、米関税が輸出に与える影響には注意が必要。</p>					
<p>◆1月 四日市港通関輸出額</p> <p>○ 833億円 前年比 ±0.0% (横這い)</p> <p>・石油製品 116億円 前年比 +113.5% (2か月ぶりの増加)</p> <p>・有機化合物 61億円 前年比 ▲1.1% (2か月ぶりの減少)</p> <p>・電気回路等の機器 51億円 前年比 ▲11.7% (18か月連続の減少)</p> <p>・乗用車 58億円 前年比 ▲63.3% (2か月連続の減少)</p> <p>・自動車の部分品 81億円 前年比 +32.4% (6か月連続の増加)</p> <p>・科学光学機器 2億円 前年比 ▲28.7% (9か月連続の減少)</p>			<p>図表12 四日市港通関輸出額<前年比></p> <p>(資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>		

5. 個別部門の動向:公共部門

公共投資	水準評価		⇒	詳細	持ち直しつつある
	基調判断	前月比較			
<p>◀現状▶ ○公共投資は、持ち直しつつある。 ○1月の公共工事請負状況をみると、請負件数は125件(前年比+1.6%)と3か月ぶりの増加。請負金額は78億円(同+16.6%)と2か月連続の増加(図表13)。請負金額を発注者別にみると、県(同▲32.4%)が減少したものの、国(同+415.4%)、独立行政法人等(同+246.5%)、市町(同+27.0%)がそれぞれ増加。</p> <p>◀見通し▶ ○2月12日に三重県は8,929億円の2026年度一般会計予算案を発表。前年度比+6.7%の大幅増でコロナ禍の2023年度8,371億円を大きく上回り過去最大となった。南海トラフ地震対策や川や砂防ダムなどの土砂撤去などが盛り込まれた。</p>					
<p>◆1月 公共投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公共工事請負件数 125件 前年比 +1.6% (3か月ぶりの増加) ○公共工事請負金額 78億円 前年比 +16.6% (2か月連続の増加) 			<p>図表13 公共工事請負金額</p> <p>(資料)東日本建設業保証㈱三重支店 (年/月)</p>		

6. 個別部門の動向:その他

物価	水準評価		⇒	詳細	上昇している
	基調判断	前月比較			
<p>◀現状▶ ○物価は、上昇している。 ○1月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比+1.5%と48か月連続の上昇(図表14)。生鮮食品を除く食料(同+6.4%)や教養娯楽(同+1.1%)など、多くの項目で上昇。</p> <p>◀見通し▶ ○米などの食料品価格上昇の影響が減衰していくもとで消費者物価(生鮮食品を除く)は低下傾向で推移していく見通し。</p>					
<p>◆1月 消費者物価指数<生鮮食品を除く、2020年=100></p> <ul style="list-style-type: none"> ○110.6 前年比 +1.5% (48か月連続の上昇) ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +6.4% (54か月連続の上昇) ・住居 前年比 ▲0.7% (4か月連続の下落) ・光熱・水道 前年比 ▲1.1% (2か月連続の下落) ・交通・通信 前年比 ±0.0% (横這い) ・教養娯楽 前年比 +1.1% (37か月連続の上昇) 			<p>図表14 津市消費者物価指数<前年比></p> <p>(資料)総務省「消費者物価指数」 (年/月)</p>		



1. 近鉄四日市駅前に「ヨッカド」が開業

- 1月5日、四日市駅前の一番街商店街に人々の新たなチャレンジを後押しすることをコンセプトにしたレンタルスペース「ヨッカド」が開業。セレクトショップやオフィスとして活用できる「Shop&Office」エリア、陳列棚とセルフレジを利用できる「Gallery」エリア、キッチンとイートインスペースで飲食店として利用できる「Kitchen」エリア、公園のようなイベントスペースでワークショップや発表会などに利用できる「Park」エリアの全4エリアを完備。
- ヨッカドは広さおよそ500㎡のフロアを17区画に区切っており、最短1日から貸し出し可能。

2. 桑名市長が中日ドラゴンズ2軍拠点の誘致に名乗り

- 1月6日、桑名市の伊藤市長は定例の記者会見でプロ野球中日ドラゴンズが2軍施設の移転先を探していることについて桑名市内への誘致を目指す旨と発表。
- 候補地として同市長島町の長島駅周辺と伊勢湾岸自動車道の湾岸長島インターチェンジ周辺を提示。
- 土地面積が6万㎡以上であることやバンテリンドームナゴヤから車で原則1時間以内でアクセスできることなどが条件。2026年度前半にも移転先公募の募集条件を公表する予定。

3. 四日市市が「よんデジ券」発行

- 1月7日、四日市市の森市長は物価高対策として市民を対象とする30%のプレミアム付き商品券「よんデジ券」を発行し、配布すると発表。
- 申込期間は令和8年5月下旬から6月中旬頃。1人あたりの累積購入限度額は3万円で利用期限は令和8年10月31日まで。
- 申し込みが発行金額を上回った場合、1人あたりの購入上限額を引き下げるなど、なるべく多くの市民に行き届くように調整する予定。

以上

景気指標

三十三総研
2026/2/27

<三重県>

(注) ()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2024年	2025年	2025年				2025年				2026年
			1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	9月	10月	11月	12月	
大型小売店販売額(全店)	(0.7)	(2.3)	(1.2)	(3.4)	(2.2)	(2.3)	(2.1)	(3.1)	(3.6)	(0.6)	
同 (既存店)	(1.1)	(1.5)	(1.7)	(2.8)	(1.0)	(0.8)	(0.7)	(1.6)	(2.1)	(▲ 1.1)	
新車販売台数(軽を除く、台)	54,634 (▲ 0.3)	53,830 (▲ 1.5)	15,297 (12.3)	11,842 (▲ 0.4)	12,917 (▲ 3.4)	13,096 (0.2)	4,867 (0.7)	4,632 (▲ 1.7)	4,516 (▲ 1.6)	3,948 (4.8)	4,300 (▲ 5.3)
うち乗用車販売台数(台)	48,294 (▲ 0.4)	47,663 (▲ 1.3)	13,713 (11.7)	10,655 (0.7)	11,421 (▲ 3.1)	11,491 (▲ 2.2)	4,328 (0.4)	4,109 (▲ 2.9)	3,953 (▲ 6.1)	3,429 (3.5)	3,833 (▲ 8.0)
新車軽自動車販売台数(台)	34,947 (▲ 12.0)	37,882 (8.4)	10,520 (20.3)	8,402 (9.9)	9,482 (▲ 1.7)	9,478 (6.4)	3,733 (0.3)	3,428 (9.2)	3,186 (4.7)	2,864 (4.9)	3,131 (▲ 1.5)
うち乗用車販売台数(台)	27,595 (▲ 11.1)	30,379 (10.1)	8,770 (22.2)	6,605 (12.9)	7,506 (▲ 1.9)	7,498 (8.4)	3,017 (1.7)	2,641 (12.8)	2,570 (9.1)	2,287 (2.9)	2,481 (▲ 6.4)
新設住宅着工戸数(戸)	7,751 (▲ 16.0)	7,342 (▲ 5.3)	2,182 (15.3)	1,594 (▲ 18.6)	1,727 (▲ 17.6)	1,839 (2.0)	534 (▲ 19.5)	750 (16.3)	513 (▲ 19.1)	576 (9.9)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	8,692 (21.1)		2,128 (6.0)	2,184 (6.0)	2,539 (8.0)		693 (0.9)	785 (10.6)	919 (20.1)		
有効求人倍率(季調済)	1.17	1.16	1.16	1.16	1.16	1.17	1.18	1.16	1.17	1.19	
新規求人倍率(季調済)	1.95	2.00	2.04	1.97	2.03	1.95	1.94	2.09	1.88	1.90	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	74,467 (▲ 5.6)	76,049 (2.1)	19,394 (▲ 0.9)	18,133 (▲ 0.2)	19,011 (3.7)	19,511 (6.1)	6,480 (7.6)	7,085 (2.9)	5,650 (▲ 0.8)	6,776 (16.5)	
名目賃金指数(調査産業計)	(4.5)		(3.5)	(1.0)	(4.1)		(3.4)	(1.6)	(▲ 0.2)		
実質賃金指数(同)	(1.3)		(▲ 0.7)	(▲ 2.2)	(0.9)		(0.0)	(▲ 2.1)	(▲ 3.3)		
所定外労働時間(同)	(2.2)		(5.8)	(6.0)	(2.6)		(1.9)	(0.9)	(0.0)		
常用雇用指数(同)	(1.9)		(0.7)	(▲ 0.2)	(0.3)		(0.7)	(0.2)	(0.2)		
鉱工業生産指数	(0.4)	(3.0)	(7.3)	(1.9)	(▲ 1.6)	(4.9)	(6.3)	(5.2)	(5.1)	(4.3)	
	-		<▲ 1.7>	< 8.1>	<▲ 4.8>	< 3.0>	< 12.9>	< 1.1>	<▲ 7.7>	< 2.5>	
生産者製品在庫指数	(▲ 8.9)	(5.5)	(▲ 0.7)	(12.2)	(7.0)	(3.5)	(3.9)	(4.5)	(0.3)	(5.8)	
	-		<▲ 3.1>	< 13.2>	<▲ 0.7>	<▲ 5.0>	< 3.5>	<▲ 6.7>	<▲ 2.6>	< 5.8>	
企業倒産件数(件)	135	123	33	19	43	28	12	8	8	12	10
(前年同期(月)比)(件)	(5)	(▲ 12)	(3)	(▲ 12)	(5)	(▲ 8)	(4)	(▲ 3)	(▲ 2)	(▲ 3)	(▲ 1)
民間非居住建築物着工床面積(千㎡)	574 (3.8)	698 (21.7)	93 (▲ 35.3)	228 (104.5)	305 (66.1)	72 (▲ 46.7)	234 (284.6)	26 (▲ 37.3)	26 (▲ 67.7)	21 (45.3)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 1,294,042	▲ 1,264,040	▲ 354,616	▲ 222,064	▲ 227,417	▲ 279,253	▲ 92,502	▲ 89,462	▲ 96,349	▲ 93,470	▲ 92,442
輸出(百万円)	1,133,799 (0.8)	1,153,636 (1.7)	269,475 (▲ 2.3)	270,934 (▲ 7.8)	269,425 (▲ 1.2)	297,963 (▲ 2.6)	94,512 (6.5)	103,761 (0.8)	95,656 (▲ 0.2)	98,545 (▲ 7.9)	95,544 (14.7)
四日市港 輸出(百万円)	1,091,240 (1.4)	1,111,102 (1.8)	244,731 (▲ 11.2)	247,223 (▲ 11.1)	245,955 (▲ 8.0)	286,433 (▲ 4.7)	82,582 (▲ 6.6)	92,593 (▲ 5.3)	95,295 (▲ 0.4)	98,545 (▲ 7.9)	83,272 (0.0)
輸入(百万円)	2,427,841 (▲ 0.9)	2,417,676 (▲ 0.4)	624,091 (4.0)	492,998 (▲ 23.9)	496,842 (▲ 23.8)	577,215 (▲ 6.9)	187,014 (▲ 8.6)	193,224 (▲ 0.7)	192,005 (3.6)	192,015 (▲ 20.0)	187,986 (▲ 13.8)
公共工事請負金額(億円)	2,004 (8.7)	2,105 (5.1)	290 (▲ 33.5)	792 (22.0)	687 (18.6)	336 (▲ 1.0)	220 (12.3)	156 (7.1)	86 (▲ 27.5)	94 (24.9)	78 (16.6)
津市消費者物価指数	(2.4)	(0.3)	(3.6)	(3.1)	(2.7)	(2.5)	(2.9)	(3.1)	(2.7)	(1.6)	(1.2)
同 (除く生鮮)	(2.2)	(0.2)	(3.0)	(3.2)	(2.7)	(2.5)	(3.0)	(3.1)	(2.6)	(1.8)	(1.5)

<東海3県(三重・愛知・岐阜)>

	2024年	2025年	2025年				2025年				2026年
			1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	9月	10月	11月	12月	
大型小売店販売額(全店)	(2.7)	(2.5)	(1.9)	(1.6)	(2.3)	(3.9)	(3.5)	(5.4)	(5.0)	(1.9)	
同 (既存店)	(3.2)	(2.4)	(2.8)	(1.7)	(1.9)	(3.3)	(2.6)	(4.6)	(4.6)	(1.4)	
新設住宅着工戸数(戸)	72,757 (▲ 1.0)	66,986 (▲ 7.9)	18,545 (▲ 1.5)	13,669 (▲ 21.8)	17,478 (▲ 5.9)	17,294 (26.5)	5,521 (2.8)	6,094 (3.0)	5,639 (2.8)	5,561 (2.8)	
有効求人倍率(季調済)	1.31	1.43	1.31	1.31	1.28	1.27	1.27	1.25	1.24	1.24	
新規求人倍率(季調済)	2.35	2.33	2.41	2.35	2.30	2.23	2.24	2.29	2.24	2.17	
鉱工業生産指数	(▲ 2.8)	(2.0)	(7.0)	(1.1)	(▲ 0.4)	(▲ 0.7)	(3.4)	(1.9)	(▲ 4.3)	(0.3)	
	-	-	< 3.7>	<▲ 4.1>	<▲ 2.0>	< 2.2>	< 1.5>	< 4.9>	<▲ 6.3>	<▲ 0.1>	
企業倒産件数(件)	868	916	220	209	263	224	84	66	61	97	102
(前年同期(月)比)(件)	(69)	(48)	(24)	(0)	(23)	(15)	(11)	(▲ 8)	(▲ 14)	(23)	(32)
域内外国貿易 純輸出(億円)	99,393	101,540	23,384	24,488	24,248	29,420	8,425	10,171	9,364	9,885	5,567
輸出(億円)	225,311 (6.0)	228,878 (1.6)	56,625 (6.9)	55,354 (▲ 0.6)	55,837 (▲ 0.8)	61,062 (10.3)	19,594 (9.3)	20,819 (4.9)	19,420 (1.3)	20,824 (▲ 2.4)	17,008 (6.2)
輸入(億円)	125,918 (1.8)	127,338 (1.1)	33,242 (12.7)	30,865 (▲ 2.1)	31,589 (▲ 3.6)	31,642 (2.5)	11,170 (4.0)	10,647 (▲ 2.7)	10,056 (1.2)	10,938 (▲ 2.9)	11,441 (▲ 5.5)

：各指標における直近の数値